スマイル　天神

思いやりのある子・進んで学ぶ子
明るくたくましい子

天神小学校
学校だよりNo.３５
令和２年１月１７日
発行者　蒲川法子

「ありがとう」の気持ち

今年は暖冬といわれ、比較的暖かい日が続いていましたが、数日前から気温が下がり、急に寒くなりました。

そんな中でも子どもたちは、元気いっぱい挨拶をしながら登校してきます。子どもたちの明るい挨拶に元気をもらいます。地域の方に「いってらっしゃい。」と声を掛けられると「いってきます！」ときちんと返せる子も増えてきました。登校後は運動場に出て、サッカーやドッジボールをしたり、縄跳びをしたりと体を動かしています。昼休みはさらに人数が増えてにぎやかです。子どもは風の子ですね。

厳しい寒さの中で、一見枯れ木のように見える木々もその外見の裏側では、芽吹く準備を着々と進めています。冬の間に蓄えた養分があるからこそ、春の訪れとともに美しい花を咲かせることができるのです。

もうすぐ立春です。あと３ヶ月で進学・進級を迎えます。子どもたちには、自分のめあてをもう一度心に刻み、日々の努力を積み重ねて、春に備えてほしいと願っています。どうぞ、家庭や地域でも子どもたちに励ましの声かけをお願いします。

さて、１月２４日～３０日は、全国給食週間です。２１日に給食集会を予定しています。

学校給食の始まりは、明治２２年、山形県の私立忠愛小学校で出された「おにぎり・塩鮭・菜の漬け物」だそうですが、本格的な学校給食は、戦後になってからです。昭和２２年、食糧難にあえぐ日本にユニセフから脱脂粉乳が提供され、翌年にはアメリカからも大量の小麦が提供されました。当時の給食は、アルマイト製の食器でパンを主食とし、鯨肉の竜田揚げや千切りキャベツなどを副食としたものでした。学校給食への理解の深まりや保護者からの絶大な支持を得て、昭和２９年に「学校給食法」が制定され完全給食の素地が整い、急速な広がりをみました。

２１日の給食集会では、給食委員会の児童の発表、給食に関わるビデオ鑑賞をもとに改めて給食について考える機会にしたいと思います。

生き物の命をいただいていることやつくってくれている方々へ感謝の気持ちを忘れず、毎日の給食を「ありがとう」の気持ちを持って残さず食べてほしいと思います。給食は好きなメニューばかりではありません。時には、苦手なものが出ることもあるでしょう。少しずつ食べることができるようになってほしいと思います。

そうしながら、生涯にわたる自分の健康を自分でつくれる子どもになってほしいと願っています。

交流遊び・地区別集団下校

１月１６日朝から、６年生の計画のもと地区別の班ごとに集まって交流遊びをしました。回を重ねるごとに集合場所に移動するのも短時間でできるようになりました。寒い朝でしたが、鬼遊びやドッジビー、伝言ゲーム、ジェスチャーゲーム、何でもバスケット等で交流を深めることができました。また、５校時終了後、全校集団下校も行いました。集合がこれまでの中で一番早く感心しました。交通安全に十分気をつけて歩くことや登校時に保護者や地域の皆様に元気に相手の顔を見て笑顔で挨拶すること、登校の時間（７：４０～８：１０に学校に着く）を守ることについて指導しました。安全に登下校できるようご家庭でも声掛けをお願いいたします。

天神小学校一徳運動・・・きもちのよいあいさつ